

スポーツ実技（ソフトボール）		実習	教授 谷口 英規	
科目カテゴリー	「スポーツマネジメントコースの専門選択科目、スポーツトレーナーコースの専門選択科目、教職科目、柔道整復師コースの教養選択科目、救急救命士コースの教養選択科目」	ナンバリング	11322108 11531104 12220110 12531104 13220117 13531104	

1. 授業のねらい・概要

ソフトボールは、「投げる・打つ・走る」などの運動の基本動作から構成され、バランスのとれた運動能力を養うことができる。また、役割を区分しやすい競技であるため、自他の能力の活かし方を考え、チームスポーツで必要とされる協調性や責任感を養い、ソフトボールにおけるルールや安全面での配慮や留意事項等の知識を学習することにより、ソフトボールの指導方法や運営方法を身につけることを目的とする。

2. 授業の進め方

基本的な技術を習得するため、グラウンド・屋内練習場での実技が中心となる。また、天候によっては教室でルールや戦術といった講義形式で実施し、レポート提出を課す場合もある。

※授業の進行状況により内容等が変更になる場合もある。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. ゲーム①（短いイニングを役割決めて行う）
2. 投球の基礎技術（グラブの使い方、キャッチボール）	10. ゲーム②（短いイニングで基礎戦術を学ぶ）
3. 守備の基礎技術（グラブ操作、ゴロ捕球、フライ捕球）	11. 班別対抗戦①（ケースを決めて走・攻・守を行う）
4. 投手の基礎技術（ウィンドミル投法）	12. 班別対抗戦②（ケース毎に戦術を立てる）
5. ノックの基礎技術（内野手および外野手へのノック）	13. 班別対抗戦③（これまでの基礎技術を活かす）
6. チームでの守備連携（併殺プレー、シートノック）	14. 班別対抗戦④（スコアの書き方を学ぶ）
7. 打撃の基礎技術（トスバッティング、ティーバッティング）	15. 班別対抗戦⑤（まとめ）
8. 走塁の基礎技術（ベースランニング・打球判断）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

ソフトボールのルールを事前に調べ、自分の言葉で説明できるようにする為の準備学修に1時間以上必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際、出題意図および回答を提出期限最終日に解説する。

6. 授業における学修の到達目標

ソフトボールの基礎技能を理解し、指導するうえで、必要な基本的な動作「投・捕・打・走」を身につけること。また、体育教員（中学校・高校）やスポーツ少年団などの各地域でのスポーツ指導者として、必要な知識（ルール・戦術）及び安全面の配慮などの留意事項等を学び、正しく安全に指導ができる力を身につけることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

技術の習熟度及び授業への取り組み（70%）、期末試験としてのレポート課題（30%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

ソフトボール 最強の戦術 メイツ出版 安藤美佐子（¥1,404）

ソフトボール 監督・コーチ入門 池田書店 宗方貞徳（¥1,296）

9. 受講上の留意事項

実技が中心のため運動に適した服装で出席すること。また、実技を行うことを考慮し受講者数を調整する場合もある。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。